

法華寺だより



小松原法難会

文永元年（千二百六十四年）十一月十一日夕闇が迫る頃。故郷・安房で布教中の日蓮聖人は、幾人かの弟子と共に信徒工藤吉隆の屋敷を訪ねる途中でした。この小松原の地で地頭の東条景信が率いる念仏行者の一団に襲われました。日蓮一行は僧侶ばかり、弟子の鏡忍坊は討ち取られ、急を聞いて駆けつけた吉隆も命を落としました。

日蓮も額を切られ片腕を折られるなどの重傷を負いましたが、奇瑞が生じたのか東条景信が落馬するなどしたため、何とかその場を逃れたのでした。

後日、鏡忍坊と工藤吉隆の霊を弔うために、吉隆の遺児が小松原の地に鏡忍寺を建立し、今日に至っております。

南無妙法蓮華經

法螺

「ほら」一般に「ホラを吹く」と言ったら、有りもしないことを言う、嘘つきでたらめなことを言うことと受けとられる。

仏教語

ここで言うホラとは「法螺貝」。古代インドでは重要な吹奏楽器として宗教儀式等で用いられ、戦場では戦いの合図とされた。日本でも

同様に様々な場面で使用された。しかし、本来は螺貝（らがい）と言ったものを、仏教などで用いていたことから、経典を訳す段階でわざわざ「法」の一字を付けて法螺貝として伝わったものらしい。

お釈迦様のように偉ぶった話をするなど言うような意味もあるとか

【仏教語散歩】

（さだまる新書）参照

いざ挑戦 日蓮検定

【二級 その⑤】

家康の側室のお方の方（養珠院）が建てた寺で、女人信仰の道場として栄えた山梨県内の寺院は次のどれ？

- 1…身延山久遠寺
- 2…法喜山上澤寺
- 3…大野山本遠寺
- 4…正住山内船寺

お会式寸景

七百三十七のご遠忌は、十月二十日・二十一日の両日実施しました。

餅まきの準備等は婦人会が担当



外回り等は布薩会が担当

ご案内

- 十一月
- 十三日 宗祖小松原法難会
- 二十九日 和讃交歓の集い
- 十勝川温泉にて

八日 釈尊成道会

日

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩みや心配事の絶えないもの……
ご来所やお電話を……
TEL 一三三・四〇三三

今月の聖語

げんぜんんのん しょうもん
現世安穩の証文

うたが
疑いあるべからざる

ものなり

【現世の安穩を得る術】

日蓮聖人が説かれる現世安穩とは決して苦が無いことではありませぬ。苦樂は表裏一体のものです。苦の中真の喜びを見出すことが仏さまの教えの真髓ではありませんか。

「如説修行鈔」より

日蓮聖人御遺文

覚書

- 七日 北見妙秀寺お会式
- 八日 池田妙教寺お会式
- 九日 羅臼本覚寺お会式
- 十九日 諸準備
- 二十日 日蓮聖人お逮夜法要
- 二十一日 お会式正当法要
- 二十八日 芽室実勝寺お会式
- 三十日 帯刑教誨

休み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）
●第五章 日蓮宗の勤行

- (1) おつとめの内容 (二) その一
- ・ 仏さまをお迎えする

み仏や神様にお出でいただくことを心からお祈りすることを勧請と言います。ところで、み仏や神様の存在を信じる心があることが前提となるので……。み仏のお姿は見えませんが、み仏の世界を信じるというのは、目に見えない世界を信じることになりませぬ。太陽の光や空気の世界は、科学の目を通さなければ

「奉仕に感謝」

- ☆布薩会と婦人会様 法会の諸準備、寺庭の環境整備等々、
- ☆田本憲吾様 御寶前重餅、 ☆藤川隆子様 仏花一対
- ☆引地能將様・高根繁子様・稗田健司様・布薩会様 餅米沢山
- ☆木村英一様 お菓子沢山、 ☆婦人会様 リンゴ沢山

法華経名句私撰

（方便品第二）

仏の成就したまえるところは

第一希有難の法なり。

ただ仏と仏とのみ乃し能く、
諸法の実相を究尽したまえり

松本慈恵師の解説より

仏が悟った法は類い稀な法で理解しがたい。仏と仏だけが究め尽くすことができるもので、物事の本質である「諸法実相」は人々の理解を超えたものである。言葉では充分に言い表せていない
【諸法実相】如是相、如是性、如是体、如是力、如是作、……、如是報、如是本末究竟等

分かりませんが、その存在を疑う人はいませぬ。愛や憎しみ、喜びや悲しみ等も目で見ることとは出来ませぬが心では感じませぬ。私達を支え、生かし、奮い立たせる等々の心の様は目に見えない世界なのです。
“人の目に見えない世界が、目に見える世界を動かして支えている”
全て人の行為は、心豊かで暖かい愛情に裏付けられてこそ尊いものではありませんか。勧請は、信じる心から始まります。

次回は、勧請してお出でいただく諸尊を簡単に紹介します

編集後記

◆試練◆この試練を超えよう
◆これを越えたところに◆また一つの新しい自己が見出されよう
◆仏教詩人とも言われた「坂村真民」氏の作品の一つです◆日々の生活で、たいした努力もしないで投げ出しがちな私への戒めです◆
◆山崎記◆

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮検定」
- ※「日蓮宗信行読本」
- ※「法華経名句辞典」 松本慈恵
- ※日蓮宗新聞